

+ 成田赤十字病院広報誌

ふれあい

〒286-8523 千葉県成田市飯田町90-1
TEL 0476(22)2311(代) <http://www.naritasekijyuji.jp/>

+
第9号
2005.12



当院看護師長を含む日本赤十字社医療救援チームをパキスタンに派遣

10月8日午前8時50分、パキスタン北部を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生、パキスタンと隣接するインド、アフガニスタンにも被害が及んでいます。今までに判明しただけで、犠牲者は約8万6,000人、被災者は400万人、家屋を失った人315万人以上とスマトラ沖地震の被災者100万人を大きく上回っており、過去100年で同国が遭遇した最も強い地震といわれています。

首都イスラマバードでも多くの建物が倒壊、崩壊した建物の下敷きとなって、日本人を含む多くの犠牲者が出ました。カシミール地方や北部辺境州では道路が寸断された地域も多く、山岳部のため救援物資の搬送も滞っており、各国からは、救援チーム派遣に加え、ヘリコプター、トラックなどの輸送手段の提供が行われ、救援活動も本格化しています。

当院では、日本赤十字社医療救援チームの一員として、看護師長1名を10月24日から8週間、被災地パキスタンへ派遣いたしました。

地震発生からの活動状況

◆10月9日

医師及び看護師3名からなる医療チーム第一陣が成田を出発。インドネシアから合流した管理要員1名とともに、医療セットを携え、パキスタン赤新月社の救援活動の支援を開始。

◆10月12日

医療チーム第1陣の2名は、国際赤十字調査チームの一員としてヘリコプターでカシミール地方の山岳部の巡回を開始。

負傷者の治療および倒壊して混乱している医療インフラを支えるために、日本赤十字社から11名からなる医療チーム第2陣を派遣。チームは、成田と福岡からそれぞれ出発。バンコクで合流後、イスラマバードへ。イスラマバード到着後は、国際赤十字と調整の上、カシミール地方で診療活動を実施。

被災地での診療活動のため、日本からは仮設診療所タイプのERUを空輸。

カシミール地方には、ノルウェーとフィンランド赤十字社が共同で、入院・手術が可能な病院タイプのERUを展開、各国の赤十字社も診療所や給水タイプのERUの展開を進めており、日本から派遣したERUチームもこうした動きと連携して被災者の診療にあたっています。

◆10月15日

医療チーム第2陣の先遣隊2名がカシミール地方ムザファラバードに入り仮設診療所の設置準備に入りました。

◆10月17日

日本のERUチームは、ムザファラバードの南東43kmに

あるチカールで医療救援活動を開始しました。チカールは、国境紛争地域のカシミール地方に位置することから、赤十字国際委員会（ICRC）との連携のもとに活動を展開することになります。

チカールの標高は1,800mを超えており、厳しい冬を迎え、深い積雪で救援活動が難航することが予想されます。



◆10月24日

北西辺境州アボダバードの病院で連盟国際チームのメンバーとして現地の外科医療を支援するため、日赤医療チーム第3陣として当院看護師長を含む医師、看護師10名が日本を出発しました。

◆10月27日

第3陣の医師、看護師10名はアボダバードの連盟病院で診療活動を開始しました。

◆10月29日

日赤のERUチームは、チカールから他のNGOが撤退したチナリに活動拠点を移し、ERU機材を展開して医療救援活動を開始しました。

◆11月4日

日赤のERU交代要員、連盟病院、ICRC病院の支援要員として日赤の医療チーム第4陣、13名がパキスタンに向け出発しました。

◆11月7日

交代要員がチナリに到着。医療救護活動を開始しました。

* ERU（Emergency Response Unit：緊急対応ユニット）とは？

自然災害などの緊急救援に迅速に対応できるよう、赤十字で開発された緊急対応ユニットで、活動に必要なテント、器材等があらかじめ梱包されており、スタッフとともに被災地に送られ、現地で展開すれば直ちに活動できるような体制がとられています。



診療所タイプのERUは、テント、医薬品、医療資器材、医薬品などがセットになったもので、4か月で約12,000人の治療が可能な設備を有しています。この他に、テントや手術器材、入院施設などがセットになった病院タイプ、浄水設備や給水車がセットになった給水タイプなどがあります。

*写真はd-ERU（国内版）

老人性痴呆（認知）疾患センター

「老人性痴呆（認知）疾患センター事業実施要綱」（平成3年12月9日健医発第1407号厚生省保険医療局長通知）に基づいて、平成5年3月1日から県知事の指定を受けて開設しました。地域での保険医療・福祉サービスの向上を目的として、老人性痴呆（認知）疾患の患者様等に関し、以下のような事業をおこなっております。

（１）事業内容について

①医療相談

家族の方などからのご相談に応じ、助言や指導を行います。必要な場合は医療機関の紹介もいたします。

②診断・治療専門医の診察・検査により医学的鑑別診断や治療方針の選定を行います。可能な治療は開始し、必要に応じて専門施設の紹介もいたします。

③救急対応

緊急を要する患者様についてもご相談に応じます。なお、緊急の患者様については、当院精神科への入院を含めて対応いたします。

④保険医療・福祉関係者への技術援助

老人性痴呆（認知）疾患についての紹介や研修等に協力いたします。

（２）ご利用方法

①電話相談の場合

専用電話（0476-23-5335）をご利用ください。平日の午前8時30分から午後4時30分まで医療福祉相談室にてご相談を賜ります。相談料は無料です。

当センターに関するご質問、ご相談に応じております。

②ご来院の場合

まず、お電話でご相談ください。ご都合に合わせて日時を決めさせていただきます。診療については、健康保険給付の対象になりますので被保険者証や老人保健証などをご持参ください。

③緊急（救急対応）の場合

なるべくお電話にて事前にご連絡ください。救急室にて専門医が診察いたします。

千葉県地域リハビリテーション支援センター

当院は、千葉県における地域リハビリテーション支援整備推進事業の委託先医療機関として平成16年9月21日に標記支援センターの指定を受け、地域におけるリハビリテーション支援活動をおこなっております。

（１）目的

急速に高齢者人口が増加していく状況において、寝たきりや閉じこもりを予防し、生き生きとした高齢期を住み慣れた地域で過ごすことが何より望ましいことです。

そのため、脳卒中などの疾患等によりリハビリテーションが必要になった在宅の高齢者や障害者の様々な状況に応じた地域リハビリテーションが、適切かつ円滑に提供される体制の整備を図ります。

（２）地域リハビリテーション支援センターの特徴

地域リハビリテーション支援センターとは、高度リハビリテーションの実施、地域リハビリテーション実施機関の支援、リハビリテーション資源の共同利用、地域のリハビリテーション施設等における従事者への援助・研修、地域レベルの関係団体（患者・家族の会、ボランティアグループなど）への支援などの役割を担います。

当地域リハビリテーション支援センターでは、各関係機関とのネットワークを構築し、地域のすべての方が同じサービスを受けられることを目標としています。

印旛山武地域難病相談・支援センター

当院は、千葉県における地域難病相談支援整備推進事業の委託先医療機関として平成17年3月30日に標記支援センターの指定を受け、地域における難病支援活動を行っています。

（１）相談支援センターの特徴

当院は印旛山武地域における総合病院であり、内科、神経内科、整形外科など、特定疾患に該当するほとんどの難病の診断および治療を行うことが可能です。

また、生活面でのご相談につきましても、ソーシャルワーカー、看護師がお話をお伺いいたします。

但し、ご相談の全てに回答ができないことがあります。その際には、適切な他の相談機関をご紹介いたします。

（２）相談事例

患者様ご本人、ご家族様ともご相談をお受けしており、

例としては、以下のとおりです。

- ・ごく最近に難病であると診断されたため、今後の病状の進行についての不安、在宅療養に対する不安。
- ・現在の治療についての疑問。
- ・病状が進行したため、身体障害の状態になったが、就労が可能かどうか。

（３）具体的な介護の仕方

相談内容は多岐に渡っております。すべてに明確な回答ができる訳ではございませんが、疑問点や不安が解消されますよう、他機関と連携をとりながら支援をおこなっております。

成田赤十字病院 外来担当医表

診療受付時間 8：30～11：00（自動再来受付機による再診受付は7：00から）但し形成外科は12：30から

（平成17年12月1日現在）

診療科目			月	火	水	木	金	土（第1・3・5）
内科	①	初診	柳沢孝夫	松尾 哲	尾世川正明	小方信二	連沼桂司	藤森 新島 森尾
	②		森尾比呂志	青嶋信之	脇田 久	新島真文	松浦康弘	倉本 志賀 江渡
	③		重田文子/倉本充彦	平栗雅樹	櫻田正也/江渡秀紀	松浦康弘/森尾比呂志	平栗雅樹/山根天道	平栗 木下で交代
	⑬		午後 志賀 孝	第1・3小方信二/第2・4・5尾世川正明			藤森義治	尾世川正明/柳澤孝夫(訪問)
	⑤ 総合1	再診 （予約）	山本麻衣/川村良一	玉置奈緒子/石塚広司	柳沢孝夫	尾世川正明	永田 豊	
	⑥ 総合2		加藤慶三	遠藤哲也(波多野 将)	森尾比呂志	(膠原病)柳沢孝夫	下斗米英史	松岡祐之(指定患者)
	④ 血液内科		青嶋信之	脇田 久	松浦康弘	脇田 久	脇田 久	
	⑧ 消化器内科		小方信二	伊能崇税	福田和司	鹿島 励	木下真子	伊能崇税(指定患者)
	⑨ 呼吸器内科		新島真文	江渡秀紀	新島真文	(喘息外来)平栗雅樹	重田文子	
	⑩ 循環器内科		尾世川正明	寺沢公仁子	吉村将之〔村山太一〕	志賀 孝	藤森義治	
	⑪ 腎臓内科			大橋弘文	(膠原病)平栗雅樹	(糖尿病)松尾 哲	倉本充彦	
	⑫ 糖尿病内科 (午後)		山根天道	櫻田正也	松尾 哲	山根天道	櫻田正也	川村良一
	救急外来		下斗米英史(平栗)	川村良一(森尾)	石塚広治	玉置奈緒子	山本麻衣(森尾)	交代制
	人間ドック		山本佳乃子(平栗)	鳥谷部武/斎藤将喜	元山天佑	永田豊/野田和敬	林裕歩子(森尾)	
	糖尿病教室		松尾 哲/櫻田正也		連沼桂司	伊能崇税	松岡祐之	連沼桂司/伊能崇税 松尾 哲/櫻田正也
外科		初診	大多和 哲	伊藤勝彦	石井隆之	清水善明	西谷 慶	近藤英介
		再診	小川 清	石井隆之	伊藤勝彦	小川 清	大多和 哲	藤森俊彦
心臓血管科		初診・再診	砂澤 徹・藤田久徳			砂澤 徹・藤田久徳		
整形外科		初診	喜多恒次	斉藤正仁	三枝 修	板橋 孝	小泉 涉	鈴木崇根・林 浩一
		再診	三枝 修・小泉 涉 林 浩一	喜多恒次・板橋 孝 小林昭久	斉藤正仁・小泉 涉 林 浩一	三枝 修 斉藤正仁	喜多恒次 板橋 孝	小泉 涉・喜多恒次 板橋 孝
小児科		初診・再診	眞山和徳・野口博史 角南勝介・渡邊智之	眞山和徳・五十嵐俊次 鈴木伸代	野口 靖・関水匡大 野口博史	渡邊智之・鈴木伸代 角南勝介	野口博史	第1・3・5 角南勝介 第1・3・5 鈴木伸代
	特殊外来 (要予約)	午後	第1～4(予防接種) 交代制	(乳児健診) 交代制	(内分泌)眞山和徳 (血液)角南勝介 (循環器)交代制 第4(発達)野口博史	五十嵐俊次・関水匡大 (血液)五十嵐俊次 野口 靖 (内分泌)渡邊智之 第4(神経)杉田克生		第1・5 五十嵐俊次 第3 渡邊 智之
脳神経科		初診・再診	柴橋博之	中村道夫	加藤 誠	五十嵐琢司 国保能彦(第3)	柴橋博之	加藤 誠
産婦人科	婦人科	初診	田中 圭	宮内 修	山地沙知	上杉健哲	杉田達哉	山地沙知/杉田達哉 交代制
	産科	再診	杉田達哉	田中 圭・山地沙知	午前 坂本建彦/午後 上杉健哲	宮内 修	午前 上杉健哲/午後 坂本建彦	杉田達哉(要予約)
	特殊外来 (要予約)	午後 (土曜午前)	田中 圭・他 (腫瘍)	小幡新太郎・他 (ハイリスク)	杉田達哉	山地沙知	小幡新太郎(要予約)	田中 圭・他 (腫瘍)
眼科	完全紹介制 紹介患者のみ	初診・再診	渡部美博 植村明弘・津田可奈	交代制	交代制	渡部美博 杉山正和・津田可奈	渡部美博 植村明弘・杉山正和	交代制
耳鼻咽喉科	完全紹介制 紹介患者のみ	初診・再診	根本俊光 橋 昌利・土井勝之	佃 朋子 大学医師	初診紹介患者のみ	根本俊光 土井勝之	佃 朋子 土井勝之	初診・指定患者
皮膚科	完全紹介制 紹介患者のみ	初診・再診	末廣敬祐 高橋真理	末廣敬祐 斎藤和彦	手術日	末廣敬祐 高橋真理	真鍋恵津子 斎藤和彦	初診・指定患者
泌尿器科		初診・再診	大木健正 第1・3尾尾昌孝/第2・4・5木野美香	大木健正・中町 裕 松本精宏	大木健正 真鍋恵津子	大木健正 山本香織	中町 裕 松野大輔	吉田一樹
神経内科		初診	吉川由利子	山中義崇	吉川由利子/片山薫	小林 誠	片山 薫	大飯啓史
		再診	片山 薫	吉川由利子	小林 誠	片山 薫	山中義崇	片山 薫
	(予約制)	再診のみ 13：30～				特殊外来(バーキンソン病) 吉川由利子		
精神科		初診	斎賀孝久	赤田弘一	佐藤茂樹	須山 章	平野恵子	須山 章
		再診	赤田弘一/平野恵子・須山 章	佐藤茂樹・小池 香	斎賀孝久/須山 章・平野恵子	佐藤茂樹・斎賀孝久	赤田弘一・須山 章	赤田弘一/佐藤茂樹/平野恵子/斎賀孝久
放射線科		初診・再診	岡田淳一	大学講師 (尾形 均)	岡田淳一	大学講師 (磯部公一)	岡田淳一	
麻酔科		初診・再診 8:30～11:00		藤井りか		江澤里花子		木島正人
口腔外科	完全紹介制 紹介患者のみ	初診・再診	村野彰行 林 幸雄	村野彰行 林 幸雄	村野彰行 林 幸雄	村野彰行 林 幸雄	村野彰行 林 幸雄	村野彰行 林 幸雄
形成外科		初診・再診 12：30～	黒木知明 窪田吉孝・小泉智恵		黒木知明 窪田吉孝・小泉智恵		黒木知明 窪田吉孝・小泉智恵	
呼吸器科		初診・再診	斎藤幸雄		斎藤幸雄			

※内科①～⑬は診療室の番号です

基本理念・基本方針

【基本理念】

- ・医療の質の向上、安全な医療の提供に努めます
- ・患者様の権利、医療人としての倫理を守ります
- ・患者様中心の「こころあたたかい医療」の実践に努めます
- ・職員の幸福と笑顔で働ける職場を目指します

【基本方針】

- ・地域の皆様から信頼される病院を目指します
- ・救急医療の充実、より高度な医療の提供に努めます
- ・地域の医療機関とのより一層の連携（病診連携、病病連携）に努めます

患者様に守っていただきたいこと

1. 適切な診療を受けるために、今まで受けた医療の内容や健康状態をスタッフに正確にお知らせください。
2. 診療の内容について十分に説明を受けてください。

患者様の権利

私たちは、患者さまの権利を尊重し、最善の医療の提供に努めます。

1. あなたの尊厳を守ります。
2. 適切な医療を受ける権利を尊重します。
3. 診療についての十分な情報、説明を受ける権利を尊重します。
4. 自分自身の治療について自分で決定する権利を尊重します。
5. あなたのプライバシーが守られます。

3. あなたご自身及び患者様の診療を円滑に行うために、病院の規則等を守るようにお願いします。
4. 医療費の支払いは、速やかをお願いします。